

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(令和3年度)

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

項目番号	第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和3年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
1	①自立支援、介護予防、重度化防止	・高齢者が可能な限り健康な在宅生活を送るために、ロコモティブシンドロームやフレイルの予防等により、身体機能の維持を促進する必要がある。 ・市民の健康や介護予防に対する関心は高まっているものの、健康づくり事業、介護予防事業への参加者は固定化傾向にあり、増えてこない状況であることから参加者を増やすための取り組みが必要がある。	健康相談、健康教育、健康づくりイベントの推進	食育・生活習慣病予防の推進	・食生活改善協議会と連携し、糖尿病予防教室、フレイル予防を目的とした「なるほど健康講座」を実施した。 ・減塩とバランスのよい食事の啓発を目的にがん検診会場でのチラシ配付を行った。 ・保健推進員研修会を開催し、感染症やこころの健康づくりについて啓発を行った。	◎	新型コロナウイルス感染症の影響により「なるほど健康講座」の開催が一部中止になってしまった。
2				フレイル予防の推進	・通いの場等においてフレイルについての講話を実施した。 ・フレイル予防のために広報誌で周知し、DVDやパンフレットの配布を実施した。	○	住民のフレイル状態を把握できていないため、多くの方に健診を受けていただき現状を把握する必要がある。
3				健康ポイント事業の推進 R3参加者数(計画)450人	・20歳以上を対象として市民が主体的に取り組める健康ポイント事業を実施した。 ・R3参加者数(実績)222人	△	応募者数の増加が見込まれない。(特に20～40歳代の応募者が少ない。)
4	①自立支援、介護予防、重度化防止	・疾病予防・介護予防の観点から、かかりつけ医を持ち、定期的な健康管理が重要となることから健診(検診)の受診促進、かかりつけ医の普及啓発を推進する必要がある。 ・市民の健康や介護予防に対する関心は高まっているものの、各種検診への参加者は固定化傾向にあり、増えてこない状況であることから参加者を増やすための取り組みが必要がある。	疾病予防の推進	・特定健診(国保+後期) R3受診者数(計画):6,309人 ・特定保健指導(国保) R3修了者数(計画):381人 ・推算塩分摂取量の検査・減塩指導	特定健診 ・R3受診者数(実績):4,278人 ・個別健診・人間ドック助成金対象医療機関を増やした。 特定保健指導(国保) ・R3修了者数(実績):94人 ・集団健診会場での保健指導初回面接の実施及び電話による保健指導の利用勧奨を実施した。 推算塩分摂取量の検査・減塩指導 ・特定健診(集団)時に推算塩分測定を実施した。	△	・新型コロナウイルス感染症への対策と受診者の利便性向上のバランスをとりつつ、受診率向上を図る必要がある。 ・保健指導は数か月にわたる支援であり、期間の長さから利用を敬遠したり、途中で脱落する方が発生している。 ・推算塩分を把握することで減塩について指導ができると思われるが、データを生かすことができなかった。
5				各種がん検診等(9種)の実施 (65歳以上各種がん検診等)R3受診者数(計画):9,590人	(65歳以上) R3受診者数(実績):6,950人	○	予約時間を細かく区切り待機時間を短くすること等で受診者が安心して受診することができたが、駐車場を確保することから会場が限られてしまい、やむを得ず受診を諦めることも考えられる。
6				・肺炎球菌の予防接種 R3接種者数(計画):500人 ・65歳以上インフルエンザ予防接種 R3接種者数(計画):7,990人	肺炎球菌予防接種 R3接種者数(実績):513人 65歳以上インフルエンザ予防接種R3接種者数(実績):8,988人	◎	・ワクチンの流通に左右されてしまう。 ・特に後期高齢者は接種を促すためにプッシュ通知が必要である。
7	①自立支援、介護予防、重度化防止	・認定率は国や県と比較すると低い水準だが、重度認定者の割合が高いことから、軽度認定者や要介護認定を受けていない高齢者の介護予防活動促進のため、介護予防の重要性の啓発や介護予防活動の検討を継続する必要がある。	介護予防普及啓発事業・地域介護予防活動支援事業、一般介護予防事業、評価事業の推進	いきいき元氣クラブ(ストレッチやロコモ体操を中心とした自由参加型の教室) R3参加者数(計画):400人	・年間121回実施予定のところ新型コロナウイルス感染症の影響により78回実施に変更。 ・R3参加者数(実績)368人	◎	新型コロナウイルス感染症の影響や災害等、クラブが休止となる際の連絡手段を検討する必要がある。
8				ロコモ体操普及事業 R3DVD貸出件数(計画):200人	・DVDの貸出しだけではなく、フレイル予防を含めたDVDを新たに作成した。 ・R3DVD貸出件数(実績):226人	◎	新型コロナウイルス感染症の影響により、ロコモ予防講座が出来ていない状況である。

項目番号	第8期介護保険事業計画に記載の内容			令和3年度(年度末実績)			
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
9	①自立支援、介護予防、重度化防止	・公的サービスに限らない、市民や地域の事業者・団体等による多様な取組みを活用した、効果的な介護予防ケアマネジメントを行い、自立支援・重度化防止を行う必要がある。	介護予防・日常生活支援総合事業の推進	訪問型サービス ・介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、B、C、D R3利用者数(計画):219人	・介護予防訪問介護相当サービス、訪問型サービスA、B、C、D R3利用者数(実績):238人	○	・日常生活支援総合事業の本質としてサービスを利用される方がケアマネジャーによる自立できるようなアセスメント管理が実行できる環境を作ることが課題である。 ・訪問型サービスA及びBは実施事業所なしのため実績なし。実施できる事業所を増やすことが課題となっている。 ・訪問型サービスBについては、地域の人が利用しやすいように、補助団体を増やしサービスを届ける必要がある。 ・訪問型サービスDは、担い手となる人材を確保する必要がある。
10				通所型サービス ・介護予防通所介護相当サービス、通所型サービスA、B、C R3利用者数(計画):246人	通所型サービス ・介護予防通所介護相当サービス、通所型サービスA、B、C R3利用者数(実績):168人	○	・介護予防通所介護相当サービスについては、高齢者を対象に複数人で行う事業なので、開催時期等慎重に決めることが課題である。 ・通所型サービスAは、実施できる事業所を増やすことが課題である。 ・通所型サービスBは、地域住民と連携を図りご近所で閉じこもりがちな高齢者(独居)の方にサービスをどの様に提供するかが課題である。 ・通所型サービスCは、プログラムを実施する事により運動機能向上等向上できる対象者を抽出する事が課題である。
11	②介護給付等費用の適正化	・在宅及び居住系サービスの受給者1人あたりの給付月額が国・県と比較して高い水準となっている。 ・必要な方へ必要なサービスが行き渡る体制を整備するために、介護サービスの適正利用を促進しつつ、介護給付の適正化による持続的な介護保険運営を行う。	介護給付の適正化に向けた取り組み	・認定調査状況の点検 R3点検件数(計画):2,262件 ・認定業務的的確・迅速をより促進するため調査内容や処理期間について点検を行う。	・R3点検件数(実績):1,860件 ・認定調査状況のチェックは随時及び月次で実施。	◎	・認定調査状況の点検は、認定調査を行った全件について実施。 ・コロナによる延長措置により調査件数が減少傾向にある。
12				ケアプラン点検による介護給付適正化 R3点検件数(計画):12件	・1回で2事業所、各利用者2人ずつのケアプラン点検を年3回実施した。 ・R3点検件数(実績):12件	◎	点検件数について随時検討する。
13				住宅改修・福祉用具の点検 R3住宅改修点検件数(計画):10件 R3福祉用具点検件数(計画):10件	・R3年度より点検実施開始。 ・R3住宅改修点検件数(実績):4件 ・R3福祉用具点検件数(実績):2件	△	・新型コロナウイルス感染症の影響により調査にいくことができない期間があり、実施件数が少なくなってしまった。 ・計画的に調査件数を伸ばせるよう検討する。
14				医療情報との突合・縦覧点検 R3点検回数(計画):4回	・毎月1回医療との突合を行い、点検を実施した ・R3点検回数(実績):12回	◎	引き続き、提供サービスの整合性の点検に努める。
15				介護給付費通知による介護給付適正化 R3年度件数(計画):7,000件	・3月、6月、9月、12月に500人ずつの4回実施 ・R3通知件数(実績):2,003件	×	送付の頻度について随時検討する。

※行が足りない場合は追加してください。なお、主要な取組に絞って報告いただいても問題ありません。